

甲府市在宅医療・介護連携推進会議
第1回事例検討作業部会（多職種連携WG）議事録

日 時 令和7年4月21日（火）午後6時30分～午後8時20分

会 場 甲府市役所本庁舎7-1会議室

出席委員 7人

事務局 地域包括支援課長、地域包括支援課長補佐、地域包括支援健課担当

（司会：地域包括支援健課担当）

1 開会

2 座長及び副座長の選任

事務局に一任。委員より異議なし。

副座長の選任についても委員より異議なし。

3 議事

【座長による出席者数の確認】

委員7名中7名が出席。過半数を満たしているため、本会議は成立とする。

議事（1）今年度の事例検討グループの活動について検討

【事務局】

- ・今年度の多職種連携ワーキンググループは、「ACPの普及啓発に関するグループ」「支援困難感への対応強化にする事例検討グループ」に分け、より具体的な内容の検討行う。
- ・事例検討作業部会の活動は、今年度の顔の見える関係づくり交流会の企画及び、資料に提示しているスケジュールを基本に活動を行うことを提案する。

【座長】

- ・今年度の活動について委員の意見を確認する。
- （意見なし）

議事（2）顔の見える関係づくり交流会について検討

【事務局】

- ・本市では顔の見える関係づくり交流会を全市版と地域包括支援センターが中心となり企画運営するエリア版で実施をしている。今回議題に上げているのは全市版となる。
- ・全市版の顔の見える関係づくり交流会では、「医療介護連携の理解の深化」「多職種の専門性の理解」「各関係機関の機能の理解」「知識の伝達/資質の向上」を目的に、必要な医療介護連携に必要な知識ベースの習得を目標としている。
- ・今年度は7月15日（火）午後6時00分から、山梨県立図書館のイベントホールでの開催を予定している。
- ・昨年度の顔の見える関係づくり交流会や、ステップアップ講座のアンケート結果からは、「ACP」「看取り」「身寄りなし」をテーマにした研修会の希望がある。また連携時に課題を感じる場面としては、日常の療養、入退院支援、急変時、看取りが挙げられている。

- ・昨年度のアンケート結果を基に、今年度の顔の見える関係づくり交流会の内容やテーマを提案したい。
- ・内容は前半：講師による講義・話題提供、後半：グループワークを考えている。グループワークでは事例を通して、専門職の相互理解ができる内容としていきたい。
- ・テーマ（案）として、2つ提示する。①身寄りのない高齢者の看取りに向けた多職種連携について、②本人と家族の意向に沿った看取りを行うための多職種連携についてである。委員の皆様には、テーマ、講師、グループワークの事例、全体的な構成について意見をいただきたい。

【座長】

テーマについて①と②どちらが良いか委員の意見を確認する。

【委員より】

(委員)

- ・県内の社会福祉士会、精神福祉士協会、医療ソーシャルワーカー協会の3団体でソーシャルのワーク学会を開催している。今年の研修テーマが身寄りなしになっている。身寄りなしは近年注目されている話題である。現場の時も身寄りなしの高齢者の対応は苦慮した経験があるので①を希望する。

(委員)

- ・身寄りなしと一言で表現しても遠い親戚がいる場合等様々である。多職種の相互理解、専門性理解を目的と考えた時に、②はACPといった視点も入ってくる。多職種の理解が進むのは②ではないか。

(委員)

- ・身寄りなしの場合、自身で食事も対応しなくてはいけない。②の場合、家族が食事の対応をしていると、食が問題にならないことがある。栄養の面から介入しやすいのは①だと思うので、①を希望したい。

(委員)

- ・①を希望する。昨年度参加し、様々な職種と交流する中で専門職の役割の相互理解が進んだ。幅広い職種と顔の見える関係を作ることで、支援の幅が広がると思う。

(委員)

- ・①を希望する。①はACP（本人意向の確認）の視点も取り入れることができる。②の場合はグループワークで、家族に支援者が振り回されてしまったという話にでなってしまう可能性があるのではないか。

(委員)

- ・現場で多い事例は②だと思う。①は事例としては限られているかもしれないが、重要なテーマであると思うため①を希望する。専門職としてどのようなアプローチができるのか、専門職ができること・できないことへの理解が進むと良い。

【座長】

- ・今年度は①「身寄りのない高齢者の看取りに向けた多職種連携」をテーマとする。

次に講師、事例、構成について協議する。

【委員より】

事例について

(委員)

- ・本人が認知症、同居者が精神疾患疑いの世帯で、意思決定ができきる人がおらず、最終的には遠方の親族を見つけ本人を引き取ってもらった事例がある。「身寄りのない方」の定義にもよるが事例はいくつかある。
- ・身寄りのない方等には、遠方に親族がいるが関りが無いという方も含まれる。前半の講義で身寄りのない方の定義を提示できると良いのではないかな。

講義・構成について

(座長)

- ・講義時間が20分と短い。昨年度の講義内容も参考になったが、今回は時間に限りがあるため、実際に支援をしている立場の支援者から話を聞けると良いのではないかな。

(委員)

- ・講師や講義内容(ポイント・落としどころ)は、事例を固めてから検討していく方がよい。
- ・最初の20分で後半の事例の導入を行い、後半のグループワークはどうか。その際、講義内では、グループワークで取扱う事例は同じが良いと思う。導入で事例の説明だけでなく、ケアマネジャー等の各職種の視点も併せて話が聞けると良い。また身寄りがない方の対応には医療、介護に加えて司法職とも連携することが必要だと感じている。

(委員)

- ・講義では導入も兼ねてポイントを絞った内容になると。参加者の実りになりやすいのではないかな。

(委員)

- ・職種の違い関係なしに、身寄りのない方への支援に必要な視点や、後半の事例を検討する上で必要な考えやポイントを、前半の講義で提示できると良いと思う。

その他

(委員)

- ・オブザーバーからの総評があると、交流会が締まると思う。

【座長】

- ・事例は委員が所属している事業所で対応した事例をベースとしていく。事例は個人情報削除した状態にし、事務局から各委員に共有する。
- ・講師と講義内容については、事例の作り上げと同時並行で検討する。

議事(3) その他

(意見なし)

4 閉会